

平成 30 年度（2018 年度）第 2 回庄内地域における新設中学校及び
義務教育学校・（仮称）北校の開校に向けた準備委員会 意見交換概要

開催日時	平成 30 年（2018 年）6 月 29 日（金）19：00～20：30		
開催場所	第十中学校 1 階多目的室	傍聴者数	8 人
出席者	委員	<p>【庄内小学校】林委員、北島委員、増森委員、東阪委員、富田委員 三間委員、村田委員</p> <p>【野田小学校】溪口委員、児島委員、民部委員、藤野委員、佐藤委員</p> <p>【島田小学校】瀧田委員、井原委員、大本委員、須賀委員 米田委員、中尾委員</p> <p>【第六中学校】亀谷委員、川田委員、矢野委員、根本委員</p> <p>【第十中学校】中北委員、三木委員、北野委員、湯井委員、島委員 埴口委員、都間委員</p>	
	事務局 その他	吉田事務局長、田中教育監、井角参事、藤原次長、眞田学校教育課長 野田主幹（計画担当）、濱副主幹、鶴主査、高橋事務職員、 大住教育推進コーディネーター	
次第	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育長挨拶 2. 京都市立東山開晴館の視察を振り返って 3. 意見交換（（仮称）北校の校名の検討について） 4. その他 		
配布資料	<p>【資料 1】施設一体型義務教育学校・（仮称）北校の校名の検討について</p> <p>【資料 2】全国義務教育学校一覧</p> <p>【資料 3】他市事例（京都市・守口市・大分市）</p> <p>【参考】「義務教育学校・（仮称）北校&（仮称）南部コラボセンターの設計に向けたワークショップ」チラシ</p>		

1. 教育長挨拶

2. 京都市立東山開晴館の視察を振り返って

事務局（スライドに基づいて京都市立東山開晴館の紹介）

委員長

- ・当日の感想や、参加されなかった方もご質問等があればいただきたい。

委員

- ・東山開晴館ではクラブ活動はどのように行われているのか。また、放課後等のグラウンドの使い方は、小学生と中学生とでどのように区分けされているか教えていただきたい。

事務局

- ・クラブ活動は、小学5年生から任意で参加できる。グラウンドの使い方について、特に説明はなかったが、低学年の子どもたちは人工芝の中庭で休憩時間に遊んだりしているということだった。

委員

- ・東山開晴館の敷地面積と、(仮称)北校の敷地面積を教えていただきたい。

事務局

- ・東山開晴館の敷地面積は約14,500㎡、延べ床面積は約14,600㎡である。見学したのは第一校舎の方で、少し離れたところに第二校舎もある。(仮称)北校の校舎について、具体的なことはまだ決定していないが、想定としては17,800㎡程度を見込んでいる。庄内小学校と第六中学校の敷地を使用するが、(仮称)南部コラボセンターも建設するため、面積はまだ決まっていないという状況である。

委員

- ・私は「魅力ある学校」づくり計画に反対である。庄内小学校と第六中学校を合わせても敷地が足りないと思う。庄内小学校が約10,000㎡で第六中学校が約11,000㎡である。運動場は庄内小学校が約4,500㎡、第六中学校が約5,300㎡で、合わせても10,000㎡もない。第七中学校と第十中学校には10,000㎡を超える運動場があるという現状がある。いつの間にか第六中学校の敷地に(仮称)南部コラボセンターができるという話になり、計画が次々に変わっている。(仮称)南部コラボセンターを作るための計画が「魅力ある学校」づくり計画なのではないかという疑問を持っている。庄内地域の老朽化した公共施設を更新するために、当初は庄内駅前に(仮称)南部コラボセンターを作るという話であった。それが反対され頓挫し、いつの間にか第六中学校の敷地に作るという計画になった。本当に「魅力ある学校」になるのかと心配している。よりよい環境を作ろうと、地域から土地の提供を受けて、庄内西小学校も島田小学校も他校に負けない広さの運動場を作っている。(仮称)南部コラボセンターの敷地に5,000㎡使うと、6,000㎡しか残らない。

この敷地で1~9年生までが本当に活動できるのか心配である。前回の開校準備委員会でも「条件的に厳しいのは否めない」という表現をされていた。「地域固有の課題については、場を変えて議論していきたい」と言っていたが、それも合わせて議論しないと、様々なことが宙に浮いたままになってしまうのではないかと危惧している。

副委員長

- ・今、聞いているのは、先日行った視察に対しての質問である。また、庄内小学校と第六中学校の敷地に1,000人規模の学校をつくと運動場がせまいのではないかとおっしゃったが、私が庄内小学校に通っていたころは、庄内小学校の敷地のみに1,000人規模であった。しかし、特に不自由な思いはしなかったと記憶している。敷地面積だけを見てせまいと言うのではなく、これからどうしていくかを考えるのが、この会の趣旨である。東山開晴館は、今回見学した校舎以外の場所に運動場と体育館とプールを作っている。今回の視察では、第二校舎を見ることはできなかったが、そのような形で敷地を確保することもできるのではないかと思う。

委員

- ・子どもの安全上、1つの敷地内で完結すべきである。また、(仮称)南部コラボセンターについては、計画を中止すべきであると考えている。当初は駅前に整備するという計画であったものが、そちらがダメになり、第六中学校の敷地に整備することになった。計画が変わるのは良いことかもしれないが、その説明がない。

副委員長

- ・私が知る限りでは、(仮称)北校の話が出た当初から(仮称)南部コラボセンターの話も含まれていた。反対されているのはよくわかったし、委員のみなさんにも伝わったと思う。反対意見についてもこの中で考えていくべきだと思うので、1つのご意見として伺う。しかし、それではどうしていくべきかという対案も出してほしい。

事務局

- ・庄内駅前の庁舎がダメになったから第六中学校の敷地に(仮称)南部コラボセンターを整備することになったというご発言があったが、それは事実ではない。(仮称)南部コラボセンターについては、当初から第六中学校の敷地に(仮称)北校に隣接して整備すると打ち出している。

委員

- ・庄内出張所の機能が、当初は(仮称)南部コラボセンターに入る計画だったが、庄内駅前庁舎に入ると変わり、それがまた(仮称)南部コラボセンターに入ると計画が変わったと認識している。

事務局

- ・出張所の機能を庄内駅前庁舎に入れると打ち出したことがあるのは事実である。様々なご意見をいただく中で最終的に(仮称)南部コラボセンターに入れることになったのはご指摘のとおりで

ある。

副委員長

- ・庄内地域を変えるための核となる義務教育学校となってほしい。核となる義務教育学校のウリは何かというと、教育内容を従前とは違う充実したものにすることである。そのために（仮称）南部コラボセンターを活用していくのだと解釈している。文部科学省は、地域に開かれた学校としてコミュニティスクールを推進している。地域と学校の接点が（仮称）南部コラボセンターであると考え、学校と隣接するのは当然ではないだろうか。東山開晴館の統合校の中には、生徒指導上、非常に厳しい学校もあったと聞いている。その学校を義務教育学校として包括することで、子どもたちはどのような様子なのだろうかと思い、視察に臨んだが、とてもおだやかな子どもが多く、義務教育学校として充実した教育内容が実践されているのだと感服した。庄内地域の義務教育学校も教育内容を充実させた学校にしたい。魅力のある学校を作り、地域・まちが変われば庄内地域に新しい人が流入してくる。様々な課題はあるが、庄内地域の子どもたちと地域にとって良い学校を、また、庄内地域のまちの価値が上がるような学校を作るために、みなさまからご意見をいただきたいし、私もできる限りのことをしたい。

3. 意見交換

○（仮称）北校の校名の検討について

事務局（資料1・2・3についての説明）

委員長

- ・校名を公募するにあたって、募集対象者の範囲と校名の条件を検討する必要がある。まずは、グループごとに意見を出していただき、後ほど発表していただきたい。

（グループに分かれて意見交換）

委員長

- ・それではA班から順に、どのような意見があったが発表していただきたい。

A班

【募集対象者の範囲】

- ・地域性を大切にするため、庄内地域に限定した方がよい。（仮称）南校校区も含めた6小学校区の児童生徒、保護者、地域住民、教職員、卒業生。

【校名の条件】

- ・子どもが書きやすいように難しい漢字は避け、常用漢字、ひらがな、カタカナを使用する。
- ・現在の校名を使わないかどうかについては、難しいことであり、とても悩んだ。
- ・あまり条件はつけずに、応募者の自由な発想で考えてもらえればよいのではないか。

B班

【募集対象者の範囲】

- ・豊中市民全員と豊中市の全学校に勤務する教職員を対象とするという意見と、庄内地域の住民と対象校に勤務する教職員に限定するという意見の両方があった。
- ・市全体がよいという理由は、(仮称)北校は豊中市にできる新しい学校であり、市の税金を使っているため、市全体に興味を持ってもらいたい。また、庄内地域以外の学校に勤務する教職員も庄内地域の学校に異動で来られる可能性がある。

【校名の条件】

- ・現在使用している学校名は除く。
- ・「義務教育学校」という名称は無理してつけなくてもよい。
- ・地域の歴史に関係する文字や地名を入れたらよいのではないか。
- ・(仮称)南校とつながりのある校名になればよいのではないか。

C班

【募集対象者の範囲】

- ・関心度や愛着心が違うため、庄内地域の住民に限定した方がよい。

【校名の条件】

- ・現在の学校名(庄内・野田・島田・第六・第十)は使用しない方がよい。
- ・条件はたくさんつけない方がよい。
- ・子どもの意見を大切に。子どもの意見と大人の意見を融合する。
- ・庄内地域の歴史や豊中市史の中から考える。
- ・いきなり校名を考えるのではなく、使いたい文字や漢字から結び付けて考えていく。

【その他】

- ・校名を3つ程度に絞ってから公募をかけた方がよいのではないか。
- ・応募者にはもれなく景品を。
- ・投票箱を学校に設置して、児童生徒はその箱に入れることで応募できるようにする。

D班

【募集対象者の範囲】

- ・豊中市で初めてのことなので市全域を対象とするという意見と、対象校の校区に限定するという意見の両方があった。

【校名の条件】

- ・ナンバリングは使用しない方がよい。
- ・旧地名を使いたいという意見と、未来性のある校名にしたいという意見の両方があった。

E班

【募集対象者の範囲】

- ・多くの人に興味を持ってもらい、庄内地域に人を集めるために、募集範囲は日本全国とする。

【校名の条件】

- ・あらゆるところから様々な意見をもらうため、条件はつけない。

委員長

- ・他のグループの意見を受けて何かご意見や感想があればいただきたい。

(意見なし)

6. その他

委員長

- ・終了予定時間が近づいてきたので、次回以降の予定や連絡など事務局から説明いただきたい。

事務局

- ・庄内公民館で設計ワークショップを開催する。参加される場合は、7月26日(木)までにご連絡いただきたい。
- ・第3回開校準備委員会は、9月4日(火)19時から第十中学校で開催する。正式な開催通知は、後日お送りする。
- ・委員の方から開校準備委員会で配付したい資料がある場合は、事前に事務局までご連絡いただくようお願いしたい。

(以上)